

タイ・バンコクにおける街路空間の特性に関する調査・分析 －スクンビットエリアのソイに接続する袋小路を対象として－

日大生産工(院) ○渡邊 貞文
日大生産工 坪井 善道

1. はじめに

本研究は2007年・2008年の調査・分析^{1) 2)}に続く一連の研究である。本稿では、2009年10月9日～21日の期間に行った現地調査について報告する。

1-1.研究の背景

バンコクの街路構造は、水路網の形態が踏襲されたものである。参考文献³⁾によるとバンコク王宮エリアであるラタナコーシン地区(図1)の地図分析(1896, 1932, 1990)の結果から、水路が埋められ、そのまま路地へと変化したのが48%なのに対して、新しく形成された路地が33%ということが明らかとなっている。バンコクの街路構造は従来の既存水路を骨格とするもので、無秩序に思えるバンコクの街路網は既存水路の形態が大きく影響している。

既存水路を基本として形成された現在の街路にも、水路網の構造が踏襲され、街区を形成する大通りであるタノンと、タノンからほぼ直角に伸びるソイは、水路網における本流と支流の関係である。本流から枝分かれし、伸びる支流はやがて細くなり行き止まる。バンコクの街路においても、タノンから伸びるソイは行き止まりを有する袋小路となり、大通りであるタノンとタノンから伸びる袋小路のソイという形態はバンコクの街路における基本形態であると考えられる。

タノンからはソイが伸び、ソイからも街路が伸び横ソイを形成する。ソイとソイを繋ぐこともあるが、横ソイの多くは袋小路となっており、バンコクの街路の形成過程⁴⁾をたどると、袋小路の街路を多く生み出すことがわかる。さらに、タノン・ソイ・横ソイと街路構造は段階構成を生み出し、袋小路はその末端を占める部分であるといえる。このことから、街路構造や街路形成の面から見て、袋小路はバンコク固有の空間利用形態が見られる場所であると考えられる。

1-2.研究の目的

本研究では、バンコク固有の形成過程から生じた数多くの袋小路(以下ソイタン)に着目し、ソイタンの空間利用形態を周辺環境(建物形式・用途)や接続するソイ、またバンコクの街路で営まれている露天商との関わりから明らかにすることを目的とする。

2. 研究の展開

2-1.研究対象地の概要

本研究では引き続きスクンビットエリアを調査対象地として選定した(図1)。このエリアは、ワッタナー行政区に含まれバンコク中央駅であるフアランポーン駅から、3.3～7.3kmに位置し、北側の境界は東西方向に流れる運河クローン・センセープであり、一方南側の境界は大通りであるタノン・スクンビットが東西斜めに走る。また東西の境界には主要幹線道路が南北に走り、エリアはほぼ台形のスーパーブロックを形成する。このエリアにはオフィス、ホテル、デパート、ショッピングモールその他、様々な店舗及び戸建て住宅、1階が店舗などのショップハウス^{注1)}・コンドミニウムなどの集合住宅、スラム化した場所が混在しながら集中立地しており



図1. 研究対象地

Survey and Analysis of characteristic of street space in Bangkok City, Thailand
－For the Dead end street connected with SOI in Sukhumvit Area－

Sadafumi WATANABE, Yoshimichi TSUBOI

新旧を含め様々な土地利用特性が観察できると考えられる。

また、エリアはタノンから地区内へのアクセスのみ可能な末端は行き止まりの多いソイによって街路網が形成され、以前は水路網が形成され埋立てにより陸路へと変わっていった^{注2)}という街路形成過程などの諸要因からこのエリアをバンコク固有の地区として調査対象地区として選定した。

本研究では、スクンビットエリア北側のソイ1〜ソイ55に接続するソイタン全90本を調査対象とした(図2)。

2-2. 調査の方法

現地調査を、2009年10月9日〜21日に実施した。

ソイ1〜ソイ55に接続するソイタン全90本の街路幅員、建物形式(アパート・ショップハウス・戸建て住宅)、階数、建物数、地上階部分の建築用途(表1)、エントランス部分、露天商の有無などを9:00〜16:00^{注3)・5)}の間で観察調査し、事前に作成したマップに記録した。

また、現地通訳^{注4)}を雇い、ワッタナー区役所において、スクンビットエリアの街路管理形態(公道・私道の別)を、ワッタナー区テサキット^{注5)}においては露天商に関する規制をヒアリング調査した。

さらにタノン・ソイ・ソイタンで営業していた露天商全30店に対してヒアリング調査を行い規制に対する実態との関係も調査した。

本稿ではソイタンの調査結果を報告する。

3. ソイタンの空間利用形態

3-1. ソイタンの事例

ソイタンは私道であり、ソイタン内の建物の所有者皆のものである。建物のエントランスへのアクセス路になっており、その利用形態は様々である。

住宅のアクセス路であるもの(写真1)、露天商がありにぎわいのあるもの(写真2, 3)、ソイタンの奥に土地神祠^{注6)・6)}があるもの(写真4, 5)、ショップハウスに囲まれているもの(写真6, 7)、ショップハウスの裏側にあるもの(写真8)、邸宅などの敷地の一部であるもの(写真9)、ソイタンがフードコートに変化しているもの(写真10)、など様々な利用形態が確認された。ソイタン内の建物形式や建築用途などソイタン



注) 数字はソイタン番号(任意) ○内の数字は公道のソイ番号を●内の数字は私道のソイ番号を示す⁷⁾

図2. スクンビットエリアと調査対象ソイタン



写真1 no. 21



写真2 no. 20



写真3 no. 16



写真4 no. 23



写真5 no. 48



写真6 no. 13



写真7 no. 78



写真8 no. 10



写真9 no. 33



写真10 no. 17

表1. 調査対象ソイタン表

接続するソイ				ソイタン					
ソイ番号	公道 私道	長さ(m)	幅員(m)	ソイタン番号	長さ(m)	幅員(m)	露天商	土地神祠	主な利用用途
ソイ1	公道	596	10	1	79	4.8			アクセス路
				2	59	4.8		○	アクセス路
ソイ3	公道	658	20-21	3	70	4.5			アクセス路
				4	78	3.2			アクセス路
				5	38	3.2			駐車場
ソイ11	公道	954	11	6	85	3.7		○	アクセス路
				7	64	4.4			駐車場
				8	67	5.5			アクセス路
ソイ15	公道	1052	18	9	67	3.7			アクセス路
ソイ19	公道	572	21	10	73	3			アクセス路
				11	70	6.4			アクセス路
				12	123	6			アクセス路
ソイ21	公道	1225	10-41.5	13	70	4.8			駐車場
				14	71	4.2			アクセス路
				15	71	5.5			アクセス路
				16	72	5.4	○		露天商営業スペース
				17	103	4.2			フードコート
				18	70	6.2			アクセス路
				19					
				20	95	5.1	○		駐車場
				21	105	4.2			アクセス路
				22	77	5.8		○	駐車場
ソイ31	公道	1633	12.5	23	60	5.8		○	アクセス路
				24	95	4.1	○		露天商営業スペース
				25					
				26	41	5.2			アクセス路
ソイ33	公道	568	9.5	27	46	5.2			駐車場
				28	62	4.5			アクセス路
				29	52	5.3			戸建て住宅敷地内
				30	141	6			駐車場
				31	34	5.6			アクセス路
				32	83	6			駐車場
ソイ35	公道	542	7	33	46	3.7			戸建て住宅敷地内
				34	86	4.7			アクセス路
				35	110	4.9			アクセス路
				36	63	3.7			戸建て住宅敷地内
				37	61	3.9		○	アクセス路
ソイ39	公道	1876	12	38	68	4.5			アクセス路
				39	46	4.4			アクセス路
				40	82	8	○		アクセス路
				41	99	3.1			駐車場
				42	50	5.3		○	アクセス路
				43	82	5			アクセス路
				44	55	5.6			アクセス路
				45	133	7			戸建て住宅敷地内
				46	53	4.6			戸建て住宅敷地内
ソイ41	公道	450	8	47					
				48	67	5.6		○	アクセス路
				49					
				50	43	6.8			戸建て住宅敷地内
ソイ43	公道	488	8	51	50	7.1			戸建て住宅敷地内
				52	64	6.2			アクセス路
ソイ49	公道	2084	10	53	55	3.5			アクセス路
				54	34	5.6			駐車場
				55	150	4.6			アクセス路
				56	34	4.3			アクセス路
				57	167	5.3			戸建て住宅敷地内
				58	148	3.2			アクセス路
				59	47	5.6			アクセス路
				60	179	5.8			アクセス路
				61					
				62	54	4.4	○		アクセス路
ソイ51	公道	494	8	63	55	5.4			駐車場
				64	85	3.6			アクセス路
				65	92	5.6			アクセス路
				66	33	4			アクセス路
				67	50	3.4			戸建て住宅敷地内
ソイ53	公道	930	12	68	40	3.8			アクセス路
				69	54	4.2			アクセス路
				70	195	5.5	○		アクセス路
				71	107	4.2			アクセス路
				72	36	4.2			アクセス路
				73					
				74					
				75	187	4.6			アクセス路
				76	132	3.9	○		アクセス路
ソイ55	公道	2248	25	77	69	4			駐車場
				78	50	4.3		○	駐車場
				79	69	5		○	アクセス路
				80	76	3.5			アクセス路
				81	92	4			アクセス路
				82	183	4	○	○	アクセス路
				83	74	4.2			アクセス路
				84	280	5.9	○	○	露天商営業スペース
				85	61	5.2	○		アクセス路
				86	71	4			アクセス路
				87	61	6.4			アクセス路
				88	95	4.6			アクセス路
				89	84	6			アクセス路
				90	227	5.4		○	アクセス路

を構成する要素を類型化する。さらに、ソイタンの空間利用形態と接続するソイとの関わりを考察する。

3-2. ソイタン調査結果

現地調査でソイタンを90本調査(調査データは83本・残りの7本は確認できなかった)し、接続するソイの公道・私道、長さ、幅員と、ソイタンの長さ、幅員、露天商の有無、土地神祠の有無、主な利用用途を表にまとめた(表1)。

ソイタンが接続するソイは、全てが公道である。バンコク都(BMA)が管理しているこれらのソイにソイタンが接続している。

ソイタンに着目して見ると、仮説では、自動車の行き来が少ないソイタンでは露天商が数多く営業しておりバンコク固有の都市風景が確認できると考えていたが、露天商が営業しているソイタンは10本と多くはなかった。しかしこれらのソイタンは、ソイタン沿道建物の用途が、集合住宅やショップハウス、店舗など調査時間帯でも人々が多く集う場所である傾向がある。露天商とソイタン沿道建物用途との関係についてさらに分析する必要がある。

土地神祠のあるソイタンは12本あり、ショップハウスやアパート、店舗、オフィスなどタイ人が利用しているであろうソイタンで多く確認された。戸建て住宅(邸宅)^{注7)}が立ち並ぶソイタンには土地神祠は確認されないことから、開発によってソイタンの利用者が変わると共にタイ固有のスタイルが都市空間から消滅していく可能性があると考えられる。

主な利用用途は沿道建物にアクセスするためのアクセス路としての利用が多く、人々が集い賑わいのあるソイタンは多くはなかった。ソイタンを駐車場として利用しているものも数多く見られ、敷地内に駐車スペースがついていないか、

高密度により駐車スペースが少なく、ソイタンに駐車せざるを得ないものと考えられる。フードコートや邸宅の一部など、一見ソイには見えないソイタンも数多くあった。これは、ソイタンが私道であり、ソイタンを取り囲む敷地の所有者が自由に利用・活用できる^{注8)}ことから、ソイタンを含めて開発したものと考えられる。

6. まとめ

本稿ではソイタンの調査結果を報告した。ソイタンの特性は、接続するソイの特性とも関わり合っていることが考えられる。また、開発とともに、ソイタンの形態が変化していったという事例も確認できた。

タイ・バンコクにおける固有性^{注9)}は外食文化、建物形式、街路管理形態の大きく3つ挙げら

れる。それぞれが、密に結びつき、関わり合い、現在のバンコクの都市空間を形成している。これらの関係を紐解き現状を分析することは、この先も行われる再開発などの計画に示唆を与えるものであると考える。今回得た調査結果を基にさらに分析を行い、バンコクの都市空間と固有性との関わりを明らかにする。

謝辞：バンコク現地調査で協力してくれたすべての方々に心から感謝します。

補注

注1) ショップハウス；1階は店舗や作業空間となっており2～5階建ての連棟式集合住宅

注2) ワッタナー区役所バンチャー・スワンチャーットリーさんに対するヒアリング調査より

注3) 露天商のアンケート調査によると、営業開始時刻は「午前9時～午前11」の間が30%、「午前12時～午後2時」が21.1%、「午前6時～8時」が20.8%となっており、終業時刻は「午後9時～11時」の間が67.1%と多い。営業時間は12時間程度が最も多い。よって、この時間帯の調査は、露天商が出店している確率が高いといえる。

注4) チュラロンコーン大学4年スチャダー・トンターンに通訳や、資料の和訳など様々な調査協力を得た。

注5) テサキットとは露天商を取り締まる市営の警察(municipal police)である。

注6) バンコクには土地神信仰が根強く生きており、土地神祠は土地を護るものとされている。

注7) スクンビットエリアは外国人居住者が多い地区であり日本人などの富裕層が多い。

注8) 私道の権利者はその私道の沿道建物の所有者である。

注9) 固有性というのは、日本との大きな違いとする。

参考文献

- 1) 秋山慎之介他「バンコクの街路構造の特性に関する研究その1～3」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2008
- 2) 渡邊貞文他「バンコクの街路構造の特性に関する研究その4～5」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2009
- 3) 谷川竜一他「バンコク・ラタナコーシン地区のThanon Dinsou街区の変遷について タイ・バンコクの都市形成に関する歴史的研究(1782年～2000年)その1」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2001
- 4) 堀米剛他「交通網と土地の関わりからみたラタナコーシン島の形成について -タイ・バンコクの都市形成に関する歴史的研究(1782-2003)その10-」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2004

5) 不二牧駿著, 「路地の経済社会学 タイのインフォーマルセクターについて」, めこん, 2001, P39

6) 後藤 淳他「土地神祠からみたラタナコーシン島の都市空間の変容について タイ・バンコクの都市形成に関する歴史的研究(1782-2003)その11」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2004

7) MapMagic : Bangkok & 7 nearby provinces [Bilingual Version]. 2009 edition - English & Thai language. CD-Rom + GPS-Surveyed Paper Map